

[シラス]

1. 経年経過及び平成 23 年 7～8 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 21 年は 1,771 トンまで減少しましたが、平成 22 年は 2,133 トンに増加しました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、平成 21 年は 871 トンまで減少しましたが、平成 22 年は 1,100 トンに増加しました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体に 53 トンの水揚げで、前年の 49 %、平年の 29 % と前年・平年を下回りました。

志布志湾海域ではカタクチシラス主体に 124 トンの水揚げで、前年の 61 %、平年の 75 % と前年・平年を下回りました。

2. 平成 23 年 10～12 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域では、前年・平年を上回り、志布志湾海域では、前年並で、平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域・志布志湾海域ともに秋漁と夏期の降水量との間に正の相関が見られることから、今年の夏期の降水量を基に今期の来遊水準を予測しました。

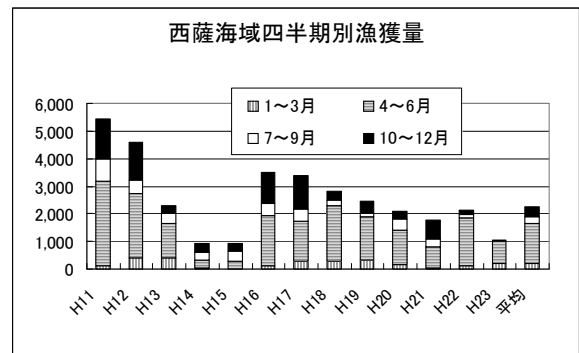
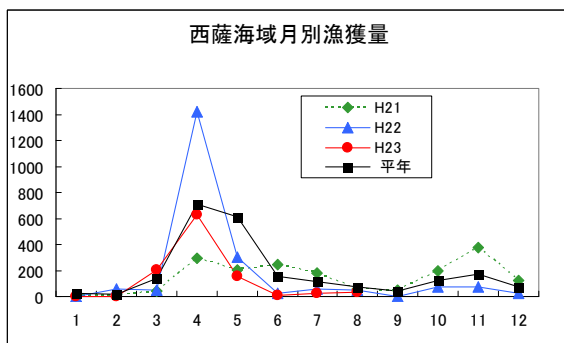


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 18～22 年)の平均値(AV)、平成 23 年 8 月末までの水揚げ量を使用。

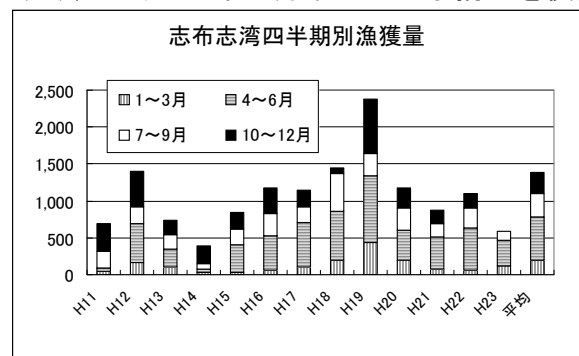
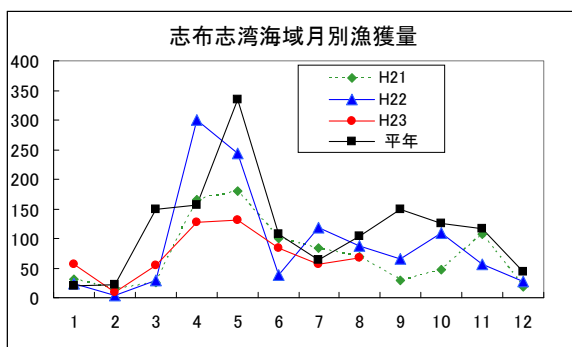


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 18～22 年)の平均値(AV)、平成 23 年 8 月末までの水揚げ量を使用。